嘉定分集

夏

蔭涼虚白家集

夏の部

拾

[illegible]　　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

如月のつごもりの空きよらかなる 後の中
徒行くに花をかつぎて川を渡
あるをきて浦島を背負ふ孫兵衛
古稀出家入けて遊る 紙屋
遊びくらしくらしまるれ
角ばりたる面もきまりたれ
初松風思
笑まひ夢もうつつを 初うらを

なりふりこそ侘て寂しけれ 松風

花時雨 雁仏

俗をあるるにやあらさ 延生仏
留をけい我身うるおうふ
石女の松うもるもし 仏生会
手ふあるあるを耳にして言葉
聊まやあるや中松市雨
宗匠人いはれ人のをとをうた

文遣よき 梅のすきりや 仏生会

誕仏ハ やよひの後の 卯月かな

灌仏や まさ今日 今日も 袷きし

今色まなるまで 寺所 灌仏や

牡丹　芥子

咲あらゆく 不空を あはてかなん哉

ちりてハうつし 牡丹ハ餞ともき

咲かきん 縁のさひしさ おもひさし

つぼみ 縁のち 袷もつむ 牡丹かな

さつきや 牡丹つひの 要太郎

皺まんとしてハ かひなる 牡丹かれ

咲縁の咲まぐ 牡丹も見ごろ

咲中そも 庭をさむしきゆらんかな

花が詠のくもむ ぼたんの花の中

咲かきん 見頃咲ころにしとるふ

かく点しく 居く去をなしや 風の心

咲まてハ花ともしらす鶏頭子

和しら花

和尓の於ゐぬしきれぬ

言の和亭倭佑

うれしさ尓侍らん川や月乃代

杜若

日乃影ほそさや のきつき

新江のふまつ象や うきつもと

望しくあまの客きんかきつたさ

撫子の仙人不在す 糸き川なさ

なくもむしふさや うきつさ

池と忠くてのさす 嬉女かきつたさ

こうん咲於き 糸し かきつさ

うきさききつそ と去のして ひく

若柴 櫻

林田のちくとうみ 松の葉つゝ

一やうにかくれなくなる紅葉哉

こぬ人をまつやとしたる紅葉哉

なるか英なる中なる新勝寺

卯月中の四日五日周防の国

引き帰さまんとすれどもまえ

なるを文章の志ちろ細くも

通天橋ふと過ぎるを行のやう

ちらちらと紅葉を見るやうなる楓

ちらちらと人なるや わうの楓

ちらちりや楓の紅葉の畑

なるやうも楓紅葉の色なる

郷人なる色なるなる楓

加子

竹なる子

常日なるやうなる紅葉の川なる

惜しなる小なるや八百屋の紅なる

色入なるなる鼻ぬやなるなるひ

こゝろを春めきてある女外
京へ出ゝ年目へきたる なすしひ斎
衣服を人まかせにて 初霜 子
年をかさねやし 喰うて 仕舞ふ

早苗　百合

さし湯ふゆらさせて竹つきかへりる
なつかしき浮巣もゆるす田毎哉
生れあらさるや早苗 子登る斎

此香と見えしや 中京の香
さゆりや手折よれはかつりふる
古城の百合人見たく残きけり

河骨　萍　浮藻

河骨や池の中なる福の仲
浮藻の中にもちてゐる日の仲哉
引汐やうきものの手をささひけり

留常来　あちさゐ 人数

とくきまや いつまて雪なれ 赤め数
せみ何の行やわくかゝらんと わかちる
そうわる夢八さゝめさの合数のむ
結構をしるさ店す 柿のれ

郭公　宗居鳥

鳴きとりよく名うてしかときます
八宗の和や 遊ぶか かしきます
月とはわるを探るや 時鳥

なき鶏る声もまれなりほとゝきす
歎されて絶しつし かしき波
やつまちて鳴て誕なし ほとゝきす
かゝきす鳴て引 出むさくの燧
ほとゝきす秋葉保内へ 折もとり
西夢乃来すまし つりかとゝきす
よき鳴くまくらの雅しや 宗居とり
なつの日の 折らうまるや かんことり

[illegible]言葉の中を記載する第[illegible]

老[illegible]

[illegible]

[illegible]

桑　牧　牧[illegible]

かくしてと[illegible]

私の書さらに[illegible]

書をあつめ[illegible]

[illegible]

出[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蠅

[illegible]

蠅

白さんせう虫とあるべしかるべし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蛛

過牛　枝蛙　切子　小鶏

鹿子

端午

ゆふつやくみの糸乃足しけ哉

もちのり御をおもひ

よしみ伴月くつ秋なりまもまたゝ

葛葉あふれり柴

くしん人渡やらと ひろりゝり

粽

帷子

ほくらをあつるふりそる ちきさ 外

たりしきる みて蕨やらしく 粽

ほそとゆ きく 流るやさく 粽

帷子よ白みてつまつ 柏葉うち

かくひろ力 浮きさしまや一日旅

帷子やつうし霜なさけらし 柚

帷子より 涼脊すくるわらひの角

藤羽織 翁 閏

うしおのく 振くそ 西なもしくそすうおり

うす羽織 着るハなし絹を脱かへし
なしきハ おもふそ 何す あつさかな
ゐのけや かるゝかしても 人なり
うすくれハ 月をこの手に 日の暮
涼しさの おもふ 志ゆり 志らの周
おかまれ あつさなしきハ おもひ出す
涼しさや つゆしまへる 月の子
月うれし 湯気かなさるちえ うれ

菖蒲湯

菖蒲湯や 人の気分る 登十の埃
さゝ木根ゝ 生まかせし子 菖蒲引
菖蒲湯や 番のきゝたく 契る 又

竹酔日

酔ふとく 竹を植けり 仕舞ありけり
なつのけく 日和をまつや 竹の陰

ミナ女

まし女の鞠子と見えし唄ひなし
さとしめやこゝろひ居をへて眺めし
柳のけしきもなかなか田舎しみ

鈴

ま鈴やそれといふ手に笛しるゆかり
鈴乃鏖ゆるもゆかりや憧の群

五月雨　綾夜　梅雨

蛙さへあゝをいれり五月雨

志ほしほる花をまとふる梅の香
みつの朝やこゝまでたつる氣清が
こしの郷の晩く周防る紫の
みつの朝をまちし紺屋の訪ふ
こしう朝を曲とのつきし夏空野
夜の朝やこのさき寄するあつまりする

夏月　夕立

川ちとやひとつなみ川さる月

猿の上に立て　中森　入る池の月
行あめの人ひるもあくるす夜の雨
夕立ちや傘なけ出す　唐斗　原
ゆふちやそこらふなりし　越後椒子
ふるやおもしろきのまそ　竹阪
おもひ渡し川のるや　猿うけ
木下写　高あし　凡董
鈴ありてさとく　高あし

たのしさもふ志ま鏡や　木下写
秋とふる　揚乃耶慶し　木下写
下写や　坂を縁参の名残く
風のそる太りふしきりし　竹帘
秋のありせき了ふきさく　柳のそる

春梅

春さめの乃や　ちかきさあしのあく
春しめや　あさしろけて梅しき

行秋

行くとしの名残を刀一筆
病ずとそたちあれ川の流れ

清水　紅葉

結ぶ人に問もるる行末清水外
杏色のなてそ　若清水
紅葉もおもき仏殿や名の清水
湯口も遠く入つる清水哉

行くさき鳥さへ住まず清水口
ひとやみて白のこころる　清水外
くもの人ぞきみまを通く清水外
手も足をあらはあらはる清水
目走るふ柳あるる昔清水
ふるうやあをを猫人のかをこ
引もとやそそる紅葉のもとり足
足先をものをなつるや　清水屋

[illegible]

冷し物

[illegible]

汗

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

氷餅

[illegible]

徒園詳

[illegible]

[illegible]

蟬

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

假題

[illegible]夏廿八日 系

内[illegible]

[illegible]

[illegible]

十とせやうくんのうれとうくやまさ
業の敷しまつ実もちまとをめ志抽うふ
憐となる袴うひやしき毛もうふ
帽つうつうなり 鶯 和 新
杉緑くく人を入やうれけ
ゆつうかのゆふそうとうふ
裏とをる菜うまりて寄 うむ
風ゆけくゑ毛こそくゑ色はうく

ゆつくしき羽もとをも羽枝を
つくくの杉ゆくうの穂麦ゆ
行くくく
ゆ代や日ゆうくるゆ田うを
ゆくくや沖代のまうきくの杉
引くかうゆくをふうを杉集
庚申寄
をうのて 行くく

つゆ雲の木ぬれを欲
かくしてもあらはれまさるこゝろ

恵
十四十五